文化

戦後75年 沖縄戦研究の視点 ②

中野学校出身 住民を監視

虐殺や防諜活動に関与

秘密戦 川満彰

かわみつ・あきら 1960年コザ市生まれ。沖縄大学大学院沖縄・東アジア地域研究専攻修了。名護市教育委員会文化課市史編さん係会計年度任用職員。著書に「陸軍中野学校と沖縄戦」（吉川弘文館）。

秘密戦とは、諜報・防諜・謀略・宣伝等を主な任務とし敵国の中に潜伏、内部からかく乱・崩壊させるとともに、戦場では遊撃戦、いわゆるゲリラ戦をもって敵陣地に忍び込み、かく乱・攻撃することである。沖縄戦では、その特殊任務訓練を終えた陸軍中野学校出身者らが中心となり遊撃戦を展開する一方で、住民が住民を監視するという防諜活動が行われていた。今回はこの二つの秘密戦を報告したい。

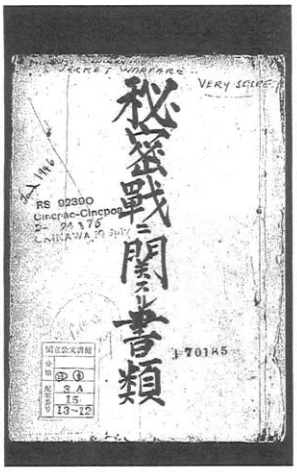
少年召集し訓練

ヤンバル（沖縄島北部）では、15歳から18歳の少年たち約千人が召集され遊撃隊・秘匿名「護郷隊」を編成し実戦していたことは近年知られるようになった。その主力となったのが村上治夫をはじめとする陸軍中野学校出身者らである。村上は「（1944年）9月9日、陸軍中野学校卒業と同時に沖縄行きを命じられた」と述べている。沖縄に到着した村上は（9月13日）、その足で第三十二軍牛島満中将、長勇参謀長らに「第三十二軍壊滅後に遊撃戦を行なう」旨の着任のあいさつを行なう。12月27日、陸軍中野学校二俣分校出身者6人が沖縄入りしたことで29人全員がそろった。

1944年10月25日（23日説あり）の第一次召集から数次にわたって召集された少年たちは遊撃戦訓練、陣地構築、3年分の食糧備蓄等を行っており、暴力を取り入れた軍隊式教育は、少年たちの人間性を喪失させ「自らも死んでも、相手を殺しても何とも思わない」兵士へと仕立て上げた。少年らは傍らで死んでいく友の姿を見ても何とも思わなくなったと証言する。護郷隊員160人が犠牲となった。

1945年1月、第三十二軍は長勇の「無防備な離島に諜報員を」という発案で29人の中から4人を第三十二軍参謀部情報班へ、11人を伊平屋・伊是名島、粟国島、久米島、多良間島、西表島、黒島、波照間島、与那国島へ1～2人ずつ教員・訓導として潜伏させた。彼らが離島へ潜伏するということは、遊撃隊の戦力低下を招く一方で、潜伏した島々に住民被害が飛び火した格好となる。伊是名島での米兵捕虜・住民殺害、久米島での鹿山正兵曹長による20人の住民虐殺（兵士11人）事件への関与は、島々に残る忌まわしい記憶となっている。なかでも波照間島に潜伏した酒井喜代輔（偽名・山下虎雄）は、マラリアが蔓延する西表島南風見田に住民を強制疎開させたことで、波照間島住民の約33%を死に追いやった。

村上治夫は沖縄着任時に「（遊撃戦は）こんな小さな島で通用しません。無理です」と、牛島満・長勇に述べている。小さな沖縄島では潜伏場所が限られるなど、困難というのが理由だった。さらに小さな与那国島に潜伏した宮島敏朗（偽名・柿沼秀男）も「小さな島では無理」と述べており、長勇発案の離島での遊撃隊は最初から無謀な戦略だったのである。



軍事極秘文書で、国頭国士隊の保管文書だった「秘密戦ニ関スル書類」。国士隊名簿や報告書等も記されている。（国立公文書館所蔵）

本土決戦へ潜伏

一方、大本営は本土決戦に向けて戦況を掌握するため、1944年6月に大本営陸軍部特殊勤務部隊（陸軍中野学校出身者で構成）を創設。うち13人をヤンバル（剣隊）、宮古島、石垣島、西表島へ、1944年11月から翌年1月にかけ随時潜伏させていた。当時、ヤンバルの一ツ岳に剣隊（隊長北一郎）の補助兵として潜伏していた宮城康成（当時17歳）は「暗号書といって柳行李に梱包されてぎっしり詰まったものを持って」「（大本営に）モールス信号で1日4回連絡」をとっていた、と述べている。宮古島に潜伏していた野村精一（中野学校出身）は「実際に（無線）が機能しているかわからなかった」と述べ、戦後、大本営で無線を受領した同期に確認すると「『無線は届いたが、何が書いているのさっぱりわからなかった』と言われた」と述べている。大本営のお粗末さが際立つ。沖縄戦で陸軍中野学校出身者総数42人中7人が戦死した。終戦後も山中に潜伏していた村上治夫は1946年1月6日頃、米軍の住民を介した説得により投降した。

有力者で国士隊

もう一つの秘密戦をみてみる。ヤンバルでは村の有力者28人で、国頭支隊秘密戦機関「国士隊」が結成されていた。国士隊の任務は反軍・反官的、反戦・厭戦の意識を持つ人、戦争に対する決意が低い人、不平・不満の言動をなす者等を探し出し日本軍へ報告するなど、いわゆる防諜活動が主だった。国士隊は、米軍上陸前の1945年3月1日～7日にかけ旧羽地村稲嶺国民学校で護郷隊中隊長竹中素（中野学校出身者）らが教官となり、実技訓練では戦闘射撃や築城、講義では精神訓話や秘密連絡等を受けている。訓練終了翌日（8日）、「特務機関設置準備幹部会」が名護町内の幸地新松宅で開かれ、3月12日、伊豆味国民学校において国頭支隊長宇土武彦列席のもと「国士隊」が結成されたのである。

国士隊がどこまで日本軍と密に関わっていたのかは不透明だが、ヤンバルでは臼石部隊が、住民が関与したと考えられるスパイ容疑者リストの手帳を持ち、住民虐殺を行っていた。八重岳に近い伊豆味山中で虐殺された本部国民学校長照屋忠英はその一人である。